第12回全国中学生ハンドボールクラブチームカップ

大会開催のガイドライン

■開催の条件

(1)政府の非常事態宣言が解除されており、かつイベント開催の自粛要請並びに都道府県をまたぐ移動の自粛要請が解除されている。但し、各都道府県の許可がある場合は、この限りではない

(2)大会に使用する会場が大会の開催を承認し、かつ大会に必要な環境が確保できる

(3)参加チームの十分な練習期間が確保されており、選手が身体的に試合に出る準備ができている

(4)台風などによる暴風警報や特別警報が発令された場合は、体育館の指示に従う(体育館規定あり)

(5)参加するチームは、運営側が提示した新型コロナ対策に協力する

■大会運営

(1)会場は、試合の前日あるいは当日に適切な方法で消毒をする

(2)会場には、アルコール消毒液を設置する

(3)すべての参加者はマスク着用を義務付ける(マスクのない者は、購入してもらう)
コートでプレイをする者以外、ベンチもマスク着用。更衣室使用時もマスク着用

(4)受付業務を行う者は、マスクとフェイスガードを着用する

(5)すべての関係者が会場に入場する際は以下の項目を書面にて提出する
①チーム代表者の氏名、メールアドレス、携帯番号、来場者氏名
②体調チェック、当日の体温
③新型コロナウイルスに関するいかなる症状も直前14日以内に見られていないこと
④生活を共にする家族に、新型コロナウイルスに関するいかなる症状も直前の14日以内に見られていないこと
⑤新型コロナウイルスの感染者や感染が疑われる人に直前の14日間に接触していないこと

(6)会場については、以下について留意すること
①各会場にアルコール消毒液や手洗い用ソープなど必要な感染対策の準備はする
②会場における人の動きを最小限にできるように計画を立てる
③換気を積極的に行う
④更衣室や会議室を利用する場合は、利用人数・時間の制限、定期的な換気を行う
⑤定期的に使用したところの消毒をする
⑥アリーナ(フロア)へは、スタッフ・選手以外入れない(入口と出口を分ける)
⑦ハーフタイムのウォーミングアップは密になるので、ハーフタイム待機場所を設置し、前半終了後に選手役員が移動後、ウォーミングアップのチームを入れるようにする

(7)全体での開会式・閉会式などは行わず、試合のみ行う

■参加条件(以下の条件が満たされない場合、大会に参加できない)

(1)体調管理表を提出 ※事前にメールで送付済
当日、スタッフにはリストバンドを渡し、選手には養生テープで印を付け、検温済のチェックをしやすい様にする

(2)大会2週間前から当日までの検温

(3)自チーム参加者全員の大会前2週間における以下の事項に該当しない(監督に確認)
◎37.5℃以上の発熱(平熱が高い場合は考慮する)
◎咳、喉の痛みなどの風邪の症状
◎だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)
◎嗅覚や味覚の異常

◎体が重く感じる、疲れやすい
◎新型コロナウイルス感染者陽性とされた者との濃厚接触の有無
◎同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる
◎過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域などへの渡航または当該在住者との濃厚接触がある
◎学校から自宅待機を言われている者

■選手又はチーム役員等の感染が判明した場合の対応
(1)大会前
①参加条件が満たされていない場合、チーム出場を認めない
②大会前当該選手、スタッフ、濃厚接触者と特定された者の出場は認めない
③代表者会議までの選手・役員の変更を認める
(2)大会期間中(出場辞退に関して)
大会に参加するすべての者(選手・役員等の会場内に入る者)は、必ず当日の朝検温を行い、又会場受付でも検温を行う。37.5℃以上ある場合(平熱考慮)や体調不良者について以下のように取り扱うこととする
①37.5℃以上ある選手・役員のいるチームは入館できない
・出場チームに感染疑いが生じ、安全性の確認が間に合わない場合には、出場辞退を勧告する。
または、参加資格を取り消す
・出場チーム(対戦相手チームの場合も含む)に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合には、出場辞退を勧告する。または、参加資格を取り消す
②体調不良者に該当する選手や役員が生じた場合は症状などの把握を本部で協議し、大会への出場の有無を決定する
＊「体調不良者」とは、以下の目安に該当する方と考えられる(厚生労働省発表)
ア:息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱などの強い症状のいずれかがある場合
イ:重症化しやすい方(高齢者や基礎疾患がある人)で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合
ウ:比較的軽い風邪が続く
③対戦チームに陽性者の疑いや陽性者が出た場合や対戦済みの相手(敗退したチーム)に感染の疑いが発覚した場合、次戦がある当該チームに対して危険を指示(勧告)できる
④試合の成立・不成立
陽性者、濃厚接触者、体調不良者の判明により辞退しなければならなくなった場合、原則として試合は対戦チームを不戦勝~~(10-0)~~(0-12)と(←2021.08.15 日本協会のご指導により、0対12 とさせていただきます。)
⑤大会中止に至る状況に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある。
政府による緊急事態宣言が再度発令された開催地自治体ならびに近隣府県で感染拡大し、開催地へ県外からの往来が拒否された場合
⑥(公財)日本ハンドボール協会が中止と判断した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある

■審判員、運営スタッフなどの行動管理
(1)以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること(当日に書面で確認を行う)
・体調が良くない場合(例:発熱・席・咽頭痛などの症状がある場合)
・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
・過去14日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等の渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
(2)マスクを持参すること(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)

(3)こまめな手洗い、アルコールなどによる手指消毒を実施すること
(4)他の参加者、主催者スタッフとの距離(できるだけ2m以上、最低1m)を確保すること
(障がい者の誘導や解除を行う場合を除く)
(5)試合中にベンチでも選手関係者席においても大きな声で会話、応援はしないこと
(6)イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して
速やかに濃厚接触者の有無などについて報告すること
(7)大会中のレフェリーミーティングは書面またはメールなどにより情報共有する
更衣室内では15分以内にならないよう留意すること
(8)レフェリーについては以下の注意をすること
・控室は密を避けるため、当該試合と次の試合の2ペアのみが使用し、他のレフェリーは競技場内での
指定された席で待機する(※審判長・副審判長は控室に滞在できる)
・選手、チーム役員、競技役員との握手やハイタッチは行わない。エアタッチや会釈で済ませる
・通信機器などを使いまわすときは、必ずウイルス除去機能のあるウェットタオルなどを使用する
(9)テーブル役員については以下の注意をすること
・最小限の人員で対応
・握手などはレフェリーと同様行わない
・筆記用具は、個人のものを持参するが、用意されたものを使用する場合は必ず使用後消毒を行うこと
(10)館内では、発行されたIDカードを、常に身につけておくこと(終了後、各自持ち帰り)

■コロナ感染症に関する事項はすべて「コロナ感染症対策委員会」で協議し、決定する

■その他
(1)会場への移動は各チームで責任を持って集団感染リスク(3密の条件)を避けること
(2)試合終了後(30分以内)は速やかに退館すること。試合観戦は認めない
(3)今後、社会情勢が大きく変化し、通常の社会生活に戻るなどした場合の対応は
上記の限りではない

■大会終了後の対応
(1)チーム代表者は、(試合終了後、帰宅後)大会終了後14日以内の健康状態を把握し、異常が見られた選手
スタッフ・保護者がいた場合には主催者に必ず報告すること
(2)体調不良者は速やかに医師による診断を受けること
(3)大会終了後、新型コロナウイルスへの感染が認められた場合は、速やかに保健所に届けると共に
大会主催者にも報告を行うこと

※熱中症対策として、1時間に1回気温と湿度を測る